

〔先代舊事本紀十〕宇佐國造

檀原朝武神高魂尊孫宇佐都彥命定賜國造、

〔續日本紀十六〕天平十八年九月己巳、從五位下大伴宿禰百世爲豊前守、

〔大友記〕大友由來之事

大友豊前守左近將監能直ト申ハ、右大將頼朝公之御息也、其謂ヲ尋ルニ、上野國大友四郎大夫經家之息女ヲ頼朝寵愛マシ、懷妊トナラセタマヒシ時、大友齋院之次官親義ニタマヒテ、後誕生ナリシオンサウシヲ、市法師殿ト申サレシハ此人ナリ、略去程ニ、頼朝公富士之御狩ヲナシタマヒシ時、曾我兄弟カタキノ工藤祐經ヲ討取、剝御料之御陣ニ亂イル、頼朝公スグニ鎧ヲ著シ、打イダシタマフ所ニ、彼市法師殿、其比十一歳ニヲハセシガ頼朝ノ御キセナガニトリツキ、君ハ是征夷大將軍ニテワタラセ給フニ、是程ノ夜討ナンドニ、カロシク物ノ具メサルベキニ非ズト、頻ニ留メ給ヘバ、頼朝公尤ト思召ト、ママリタマフ其後幼少之モノ、キドクナル事ヲ申タルト御感アツク、豊後豊前兩國ヲタマハリ、豊前守左近將監能直ト號、官位五位上、大友ハ氏タリトイヘドモ、能直正ク頼朝ノ御子ナルニヨツテ、ミナモトノ氏ヲクダサレ、義直ヨリ源氏ニナリタマヒケリ、カクテ能直豊後國府内ニ下著アリ、累代年久ク、今ノ義鎮公マデ十八代、メデタクサカエ給ヒケリ、

〔太閤記十〕大隅日向知行割之事

七月○天正十五年朔日、秀吉箱崎を御立なされ、宗像に御宿陣、三日、小倉之城につかせ給ふて、豊前八郡之内六郡、黒田勘解由に被下、二郡は毛利壹岐守に被下、則小倉を居城に致し可申旨也、黒田は馬嶽居城に宜しからんやと、自由せさせ給ふ、

〔川角太閤記三〕一豊前國小倉森壹岐、六萬石、是は大坂へ籠申候豊前親也、黒田官兵衛豊前の中津